

コラム

鶴見駅は、今年で開業140年を迎えました!

遡ること今から140年前・・・明治5年(1872年)5月7日、品川・横浜間で鉄道が開通し、仮営業を開始します。その後6月5日、川崎・神奈川両駅が開業しました。そして、約3か月後の9月12日(※新暦では10月14日)に、新橋・横浜間が全通。鶴見駅は、この翌日に、新橋・横浜間の中間駅の一つとして開業しました。

◆ 当時の利用者数は?

開通直後の鶴見駅における利用者数は、一日あたり数十人ほどでした。

一方、140年後の現在のJR鶴見駅の一日平均乗車人員は、76,445人(平成23年度)となっています。また、京急鶴見駅の一日平均乗車人員は13,893人(平成23年度)です。

明治5年の開業から、140年間を経て、時代の流れと町の発展に伴い、鶴見駅の利用者数が増加していったことが分かります。



【明治時代初めの鶴見駅】(横浜開港資料館所蔵)

◆ 当時の運賃は?

開業当時の運賃は、新橋・横浜間で上等1円12銭5厘、中等75銭、下等37銭5厘でした。当時は、米価一升(1.5kg)が約4銭であった時代で、お米10kgよりも下等運賃の方が高価であり、一般の人々にとって鉄道は、簡単には利用できないものでした。

～鶴見 鉄道の歴史いろいろ～

JR鶴見線の前身である、「鶴見臨港鉄道」が開業となったのは、大正15年のこと。そして昭和9年に、鶴見駅に乗り入れとなりました。その後、昭和18年に国が買収し、現在に至ります。

その他にも、鶴見には大正14年から、昭和12年まで、總持寺前から川崎大師を結ぶ「海岸電気軌道」が走っていました。また、太平洋戦争中には、生麦から鶴見にかけて市電の路面電車が走っていました。しかし、この路線は、終戦後にアスファルトで埋められ、非常に短期間で姿を消しました。



鶴見駅開業140年の今年、11月1日に駅ビル「シアル鶴見」が開業!!

